

## 実践（研究）報告書

広島県立黒瀬高等学校  
(教諭 坂本 雄哉)

### 本実践のポイント（高校教育指導課指導主事 宮本 洋子）

本実践は、生徒が遠い存在として捉えている社会保障制度を、自分事として捉え、自身の生活や福祉分野における介護実践と結びつけるよう工夫された授業実践となっています。

雇用保険の保険事故の内容を盛り込んだ事例を活用し、イメージマップや厚生労働省が出すリーフレットを用いて生徒の思考を整理し、ICT機器を効果的に活用することで、現在の制度の現状や課題について思考を深めることができるよう工夫がなされています。

#### 1 はじめに

日本における社会保障制度の範囲は、1950年社会保障制度に関する勧告により、社会保険、公的扶助、公衆衛生および医療、社会福祉の4部門としている。社会保障制度がもたらす機能として、生活安定、経済安定、所得再分配機能がある。その中において社会保険は、医療、介護、年金、雇用、労働者災害補償と5つの分野から形成される。保険事故に備えて保険の加入者が保険料を出し合って財源とし、実際に保険事故が生じた場合に金銭等給付を行う。社会保険は、法令に定める要件に当てはまる場合は、必ず加入をしなければならない。

我々国民には、社会保険を上手に活用し、人生におけるリスクを乗り越えることが求められている。つまり、社会保険は防貧的役割を担っており、これら制度を理解し、活用していくことが安定した生活を送ることにつながっていく。

#### 2 問題の所在

生徒の多くは、制度や法律を遠い存在として捉えている。それは法律や制度の仕組みが難しいことや生徒自身が実際に制度の恩恵に預かっていることを実感していないからでもある。しかし、2年後には実際に社会に出て生計を立てていかなければならない生徒にとって、これら制度を上手に活用することが必須となる。救貧的役割である「公的扶助」とは違い、防貧的役割である「社会保険」は必ず活用していく制度となる。また、今回取り上げた「雇用保険」は育児・介護休暇とも関連しており、男女ともに社会進出が盛んな現代において、その仕組みの理解および活用は必須となる。これら制度を理解し、活用できるよう主体的かつ協働的に取り組ませることが重要である。

#### 3 具体的な取組

本時では、雇用保険の保険事故の内容を盛り込んだ事例をもとに、生活課題とその解決策を考えさせた。その際、イメージマップを活用することで、制度に頼らない解決策を合わせて引き出した。また、厚生労働省が出すリーフレットを活用することで、生徒自身が実際に同様のケースに陥る前に様々な方法の選択ができる力を養った。

#### 4 成果と課題

今後の生活で起こりうる事例をもとに、雇用保険制度の利用者を対象としたイメージマップと活用したことで、実際に保険事故の生じた場合にどのような行動をすればよいのかを考えさせることができた。また、保険事故を生じさせない選択を合わせて考えさせたことで生徒自身の今後の生活をコーディネートさせることができた。しかし、事例の時系列が読み取れていない生徒や出来事の関連付けが難しい生徒もあり、内容を絞って提示する必要があると考えた。

#### 5 おわりに

今回、雇用保険について、今後の生活において生じうる保険事故とその解決策について考えさせた。その際、イメージマップの活用をすることで、保険事故の生じない選択、保険事故の生じた際の解決策を考えさせた。生徒同士の主体的かつ協働的な学習を促すためには、生徒自身が今後の生活をイメージすることが重要であり、他者との比較から自身の考えを再構築する必要がある。そのため、教師は生徒へ提示する内容を精査するとともに、生徒の理解度に応じてその情報量をコントロールする必要があるのではないかと考える。